

川崎市青少年育成連盟 (社)川崎市子ども会連盟・ボーイスカウト川崎地区協議会・ガールスカウト川崎市連絡会・川崎海洋少年団

育連だより

<http://web-k.jp/ikuren/>

ボルチモアー川崎ボーイスカウト交流 30周年プログラム 第23回ボルチモアー川崎交流行事を終えて

ボーイスカウト川崎地区協議会 国際委員長 長谷川 博 之

川崎市と米国・メリーランド州・ボルチモア市は1979年に姉妹都市提携を結び、両市のご理解とご支援により川崎市から1985年に第一回目の派遣を開始したのが始まりです。そして翌年の1986年には第二回派遣隊としてボルチモア市から来日が実現し、これ以降毎年の相互交流が展開され、来年で30周年を迎えます。

これまでの道のりの中で、狂牛病、SARS、鳥インフルエンザ、東日本大震災などの影響で相互に交流が中断した時期もありましたが、お互いの理解のもとに交流は毎年継続されています。

今回は交流30周年記念の一環として、ボルチモアから13人の第23回派遣隊が川崎市を訪れ、ホームステイしながら2週間にわたる交流を行いました。

プログラムは7月20日の福田市長ご臨席による30周年記念レセプションを皮切りに、川崎市長を表敬訪問、川崎大師特別参拝、川崎地区スカウトとの合同プログラムである富士登山ならびにFunny Bear Camp (八ヶ岳少年自然の家)、鎌倉見学ならびに東京見学により展開されました。

特に富士登山はボルチモアのスカウトにとって最大のアドベンチャープログラムで、今回も全員が無事登頂・下山することが出来ましたことは大変喜ばしいことでした。

また、今回は日本の伝統文化の理解として、武道体験をメインにキャンプ中の八ヶ岳少年自然の家での剣道体験、川崎に戻ってからは居合道の体験をしました。ホストファミリーも参加してのこれらの体験はとても有意義なものとなりました。



■期間：2014年7月20日～8月3日

■参加者数

- ・ボルチモア側：指導者3名・スカウト10名、計：13名
- ・ホストファミリー：川崎地区 15家庭
- ・プログラム運営：川崎地区協議会のスカウト・指導者のべ約190名の参加により運営されました。

なお、来年は30周年記念行事の最終年として第24回派遣隊を川崎市からボルチモア市へ派遣することが決まっています。



第21回関東地区大会が静岡県朝霧高原にて開催

川崎海洋少年団 井本 勝己

日本海洋少年団関東地区大会が7月26日～28日に静岡県立朝霧野外活動センターで開催されました。

静岡県清水団を含む関東地区の海洋少年団が、昨年世界遺産に登録された富士山の麓、朝霧高原に集まり、日頃の訓練を競い、友情の輪が結ばれました。

関東地区大会は、全国大会の隔年で実施されており、全国大会と比べ規模は小さくなりますが、団員は各地の団員と互に、密に接することができ、大変に貴重で楽しみにしている大会です。

今回は、各団員が混合で班を組み、高原の中、自然に親しみながら歩くウォークラリー大会の企画も行われました。団員同士、前回の大会で顔をあわせていたこともあって、すぐに打ち解けていました。



日頃、同じ目的をもって活動しているので、なおさらだったと思います。団を問わず、年長の団員は年少の団員の面倒をみてあげており、普段に所属する同じ団員と団が異なっても同じく接していました。

大会は、手旗信号受信競技、送受信競技、ロープ結索競技を実施しました。

手旗信号受信競技では、1分間で40文字のペースで送信され、100文字をすべての受信を行うこと。送受信競技では、5人がチームとなり、伝言ゲームのように50文字を伝えていくものになります。

ロープ結索競技は、25種類の結び方の中から、当日に告げた10種類の結び方を時間内に的確に結びつけるものです。

それぞれ大変な競技ですが、各団員も真剣に取り組み、前回よりも高得点であり、来年度の全国大会が楽しみになった結果でした。

ガールスカウト神奈川県連盟60周年記念キャンプ

ガールスカウト神奈川県32団 リーダー 伊藤 悦子

ガールスカウト川崎市連絡会では、8月12日から15日の3泊4日、戸隠ガールスカウトセンターで行われたガールスカウト神奈川県60周年記念キャンプに参加しました。

戸隠は日頃の訓練の成果を発揮する場であると同時に試される場でもあります。そこで5月から合同で準備を進めてきました。

6月のキャンプ訓練では、テントの建て方の順番を覚えるだけでなくパトロールのみんなで力をあわせること、大きな声で声をかけあうこと、次にすることを考えながらそれぞれが動くことなどの必要性を身をもって知ったようです。

訓練の成果もあり、戸隠では無事に暗くなる前に必要なテントをすべて建て、夕食を食べることができました。こうして建てたテントを拠点にハイキングや縁日（オープンデー）を楽しんだり、県内のほかの団や台湾、韓国のスカウトたちと交流したりしました。特に3日目夜のキャンプファイヤーでは、若いリーダーの指導の下でみんなで練習した「妖怪ウォッチ体操」を披露し、場を盛り上げました。

日常生活とかけ離れた4日間は、多少の不便を感じたかも知れませんが、それ以上に自然を大切に、自然の中で生きるという経験を、各自の胸の中に貴重な体験、記憶として残ったようです。



「特に優良な少年消防クラブ賞」受賞

幸区子ども会連合会 青木 マチ子



平成26年3月25日、
消防庁長官より、表彰
旗と表彰状(楯)を受賞
いたしました。



昨年4月に川崎市幸区子ども会連合会から、少年消防クラブの担当が南河原地区こども会に決まったと連絡を頂き、子ども達の募集を行いました。幸町小学校と南河原小学校から35人の子どもが集まり、運営委員8人、保護者の方々、幸消防署の方々との1年間の活動が始まりました。

6月に幸消防署長、幸町小学校、南河原小学校の校長先生をはじめ、幸区町内会連合会長、幸消防団長、幸防火協会長、幸区子ども会連合会長、ご来賓の方々とたくさんの保護者の出席のもと、結成式を行いました。終了後には、はしご車搭乗体験、ロープ結索訓練など防火防災の学習をしました。

夏休みには在日米海軍横須賀基地にて、消火救助

訓練を体験し、アメリカの消防車両を見学、日本の中にあるアメリカの消防を学びました。12月には川崎市消防音楽隊の素敵な演奏を楽しみ、音楽を通じて防火知識を身につけました。

川崎消防航空隊では「そよかぜ」を見学しDVDを見ながら航空隊についてお話を聞き、ヘリコプターの救助機材の仕組みを学び、救助活動を体験しました。子ども達もとても貴重な経験ができたと思います。

少年消防クラブの1年間の活動で学んだことを良い思い出とするだけでなく、防火防災の意識を高め、子ども会行事や地域で、家族や友達を通じ、防火防災の輪を広げて行きたいと思っています。



川崎フロンターレ『カブの日』協カイベント 「キャンプフィールド」の実施について

ボーイスカウト川崎地区協議会 地区委員長 境 紳 隆

8月9日(土)等々力緑地においてボーイスカウト活動の一端を紹介するイベント「キャンプフィールド」を実施しました。『カブの日』とは新たに川崎フロンターレのマスコットに就任した「カブレラ」の命名を祝うイベントで、「カブ」繋がり「カブスカウト」を含む我々ボーイスカウト川崎地区に参加協力依頼があったものです。

内容的には①飯盒炊飯、②火起こし体験、③ロープワーク教室、④スタンプラリー、⑤スカウトパフォーマンス披露、⑥モデルサイト設置の6種類を用意しました。

飯盒炊飯では、参加者自ら飯盒と家庭用カセットコンロを用いてご飯を炊いて貰いました。「こんなに簡単に美味しいご飯が炊けるとは」と皆さん吃驚されていました。火起こし体験では、木製の火起こしキットを使って火起こしに挑戦して貰いました。風が強いこともあり、残念ながら火が着くところまで行った方はいませんでした。

こうしたスカウト活動の一端に触れ、興味を持って戴けたなら幸いです。



飯盒炊飯



火起こし



スキル・オ・ラマ(スカウトパフォーマンス)

今、わたしにできること B-Pアワード受賞

ガールスカウト神奈川県第48団 レンジャー 鳥海 ゆめ

高校3年間、私はガールスカウトと学校で、被災地に目を向けた活動を行ってきました。2011年3月11日中学3年生だった私は、TVで東北の様子や首都圏の混乱状況を観てぼう然としました。卒業式が中止になり、当たり前が脆く崩れたことにショックを受けました。

私たち48団は3.11後、1週間もたたないうちに部門集会を行い、自分たちに何ができるかを考えて募金活動を始めました。5月の被災地訪問を経て、リーダーに紹介されたB-Pアワードの挑戦を決め、個人的にも活動を始めました。ガールスカウトの活動として、ギャザリングへの参加や募金活動、団では季節に合わせた衣類支援を継続しています。高校では有志のグループに属し、被災地訪問やボランティア、地震や原発に関する学習とディスカッション、ドキュメンタリーの制作などを行いました。このプロジェクトで私は、被災地や原発に関する知識と学ぶ機会、行動力、そして人とのつながりを得ることができました。

3年間、自分が見聞きしたことや感じたことを自分の中だけに留めず、周りの人に伝えていくという

「発信」を大切にしてきました。一緒に「発信」してくれる仲間、そしてそれを「受信」してくれるたくさんの人に出会えたことを幸せに思っています。テンダーフットから13年間続けてきたスカウト活動を、B-Pアワード受賞という素晴らしいかたちで締めくくれたことが嬉しいです。沢山の方の支えと応援、ご協力に感謝します。



「B-Pアワード賞」とは、すぐれたレンジャープロジェクトに対してガールスカウト日本連盟が授与する最高の賞です。B-Pとはガールスカウトのモットーである「Be Prepared そなえよつねに」の頭文字を表したものです。

八ヶ岳宿泊研修を終えて

多摩区子ども会連合会 服部 優子

今年の八ヶ岳宿泊研修は三日間とも晴天に恵まれ熱中症の心配をよそに思う存分体を使って活動してきました。

我が生田支部は少数精鋭部隊。何をやるのも意欲的で、そして時にはシャイなところも見せるリーダー研修生が、ジュニアや役員をおおいに楽しませてくれました。

初日は恒例の入所式に始まり、ジュニア中心のキャンプファイヤーを盛大に行いました。メインの2日目は、園内ハイキング。段ボールで作る写真たての飾りを拾って歩き、その後手作り工作をしました。昼食はソーメン流し、夕食はカレーを作り、そして夜はワーキングホールにてリーダー研修生中心のスタンツの発表。時間のたつのも忘れるくらい、踊り、走りまわり、そして大声をだし、八ヶ岳ならではの研修ができました。

3日目は声をからし、筋肉痛で思うように動かない体にむち打って、朝のつどい、ゲームにと最後の力を振りしぼって頑張りました。

リーダー研修生にとってこの研修はどのように感じたでしょうか？楽しかった、また参加したいと思ってくれたら最高の幸せです。



川崎市立学校インターネット問題相談窓口（ネットの悩み相談しよう！）

子どもたちを取り巻くインターネット問題のトラブルについて、相談に応じています。

電話相談 044-844-3638

受付：平日 8:30~12:00 12:45~18:00 18:45~20:15

PCメール <http://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000027223.html>

携帯メール https://sc.city.kawasaki.jp/multiform/k/multiform.php?form_id=74

発行 川崎市青少年育成連盟
事務局 〒213-0001 高津区溝口1-6-10
生活文化会館（てくのかわさき）3階
TEL 044-811-2125 FAX 044-811-2126

青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、
川崎市青少年育成連盟事務局へ

印刷 有限会社 アキプリント社